

キュウリ

栽培のポイント

① 肥切れをさせないよう、追肥に気をつけましょう

株全体が黄色くなり生育の遅れる原因に、窒素や水分の不足が挙げられます。草勢が弱く栄養状態が悪いときは、病気も発生しやすくなります。早めの追肥で草勢を回復させましょう。実のらせ過ぎ、採り遅れなども草勢が弱くなる原因の1つ。適切な時期に収穫するように心がけましょう。

② うどんこ病に注意しましょう

キュウリ栽培で発生しやすいうどんこ病は、糸状菌が原因の病気です。やや乾燥した風通しの悪い環境で広がりやすく、雨の当たらない場所で被害が大きくなります。薬剤を使用する場合は、「トップジンM水和剤」などを散布しましょう。

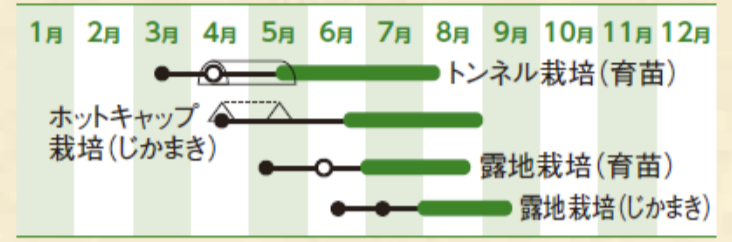
③ 生育環境に注意しましょう

風や乾燥に弱いので、風通しが強すぎる場所や、雨が全く当たらない場所での栽培は避けましょう。多少日陰になっても、果実は大きく育ちます。



品種例
「夏すずみ」「Vアーチ」
「シャキット」など

栽培カレンダー

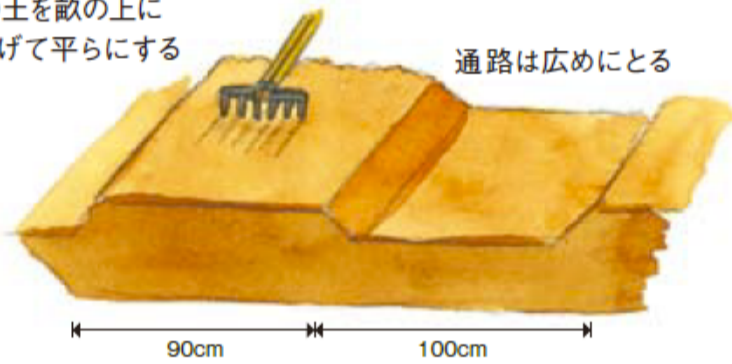


1 畑の準備

元肥を全面にばらまいて
鍬で15~20cmの深さによく耕す

1㎡当たり
油粕:大さじ5杯
堆肥:5~6握り
化成肥料:大さじ3杯

通路の土を畝の上に
盛り上げて平らにする

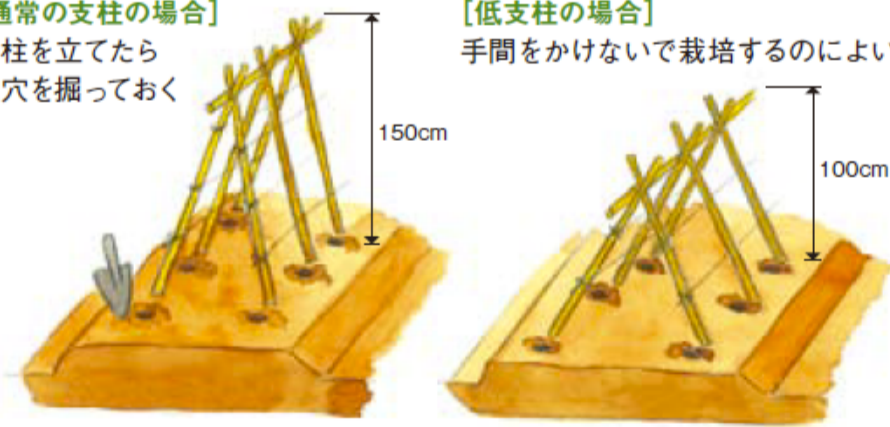


通路は広めにとる

2 支柱立て

[通常の支柱の場合]
支柱を立てたら
植穴を掘っておく

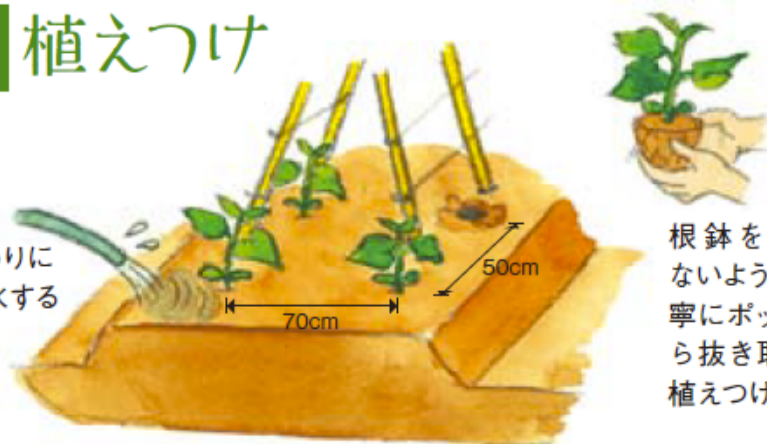
[低支柱の場合]
手間をかけないで栽培するのによい



横に2~3段、側枝を支えるポリひもを張る

3 植えつけ

株のまわりに
十分灌水する



根鉢を崩さないように丁寧
にポットから抜き取り、
植えつける

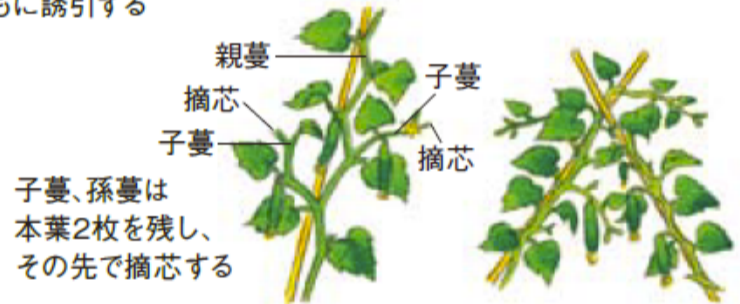
4 誘引

[通常の支柱の場合]
蔓の伸びは極めて早いの
で、垂れ下がらないうちに
早めに誘引する

伸びてきた子蔓は
ひもに誘引する

主枝は1.5mくらいの
高さで摘む

[低支柱の場合]
親、子、孫蔓とも
摘芯しないで伸ばす



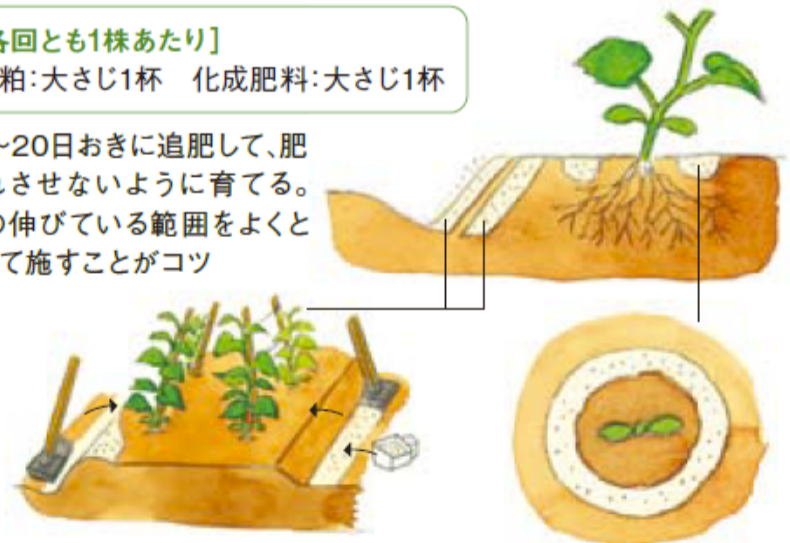
子蔓、孫蔓は
本葉2枚を残し、
その先で摘芯する

垂れ下がったら蔓を支柱、
ひもに引っかけるだけで摘芯しない

5 追肥

[各回とも1株あたり]
油粕:大さじ1杯 化成肥料:大さじ1杯

15~20日おきに追肥して、肥
切れさせないように育てる。
根の伸びている範囲をよくと
らえて施すことがコツ



2~3回目は軽く溝を作り、
肥料を施してから土を畝に寄せ上げる。
4回目はベッドの両脇にばらまく

1回目は株のまわりに施し、
軽く土と混合する



キュウリは生育が早く生長の過程がよく分かります。また、たくさん実るので楽しみながら育てることができます。ぜひ、挑戦してみてください!!

営農販売部 営農指導課
山下 晃

キリトリ線に沿ってお切りください